

11の歌に出会って

湊 繁行



湊 繁行さん

東京の木々も色づきはじめ秋本番の小春日よりのある日、久しぶりに湘南に行く機会がありました。それはフランス料理のレストランで歌好きの同好の士たちと料理を食べ、ピアノの伴奏で歌い、聴く会です。11時30分に小田急線「鵜沼海岸」駅で待ち合わせのため私は浦和の自宅を9時40分に出かけ、少し早めでしたが駅に着き、暫くして同好の人たちと合流して、目指すレストランに向かいました。徒歩で10分弱で目指すレストラン「レスブリ・フランセ」が瀟洒な佇まいを見せて、門扉を開け中に入ると、庭は見事に造園がなされ、池には錦鯉が悠然と泳ぎ、緑の草

木と心地よい調和がありました。

建物の中はフロアがウッドに設えてあり、70席がゆったりと入るテーブルが配置され、グランドピアノが十分なスペースを確保され、演者の心を誘う空間となっていました。

その日は同好の方々7名と、作詞家の山口洋子先生と歌手の古賀功子さんもお見えになり、最初に先生作詞の「ふるさとの空につづいている」が古賀さんの気品のある優しい歌声で歌われました。ゆったりとした癒やかなメロディーが流れ、自然に懐かしいふるさとの光景が甦ってきました。

私自身は現在カンツォーネに惹かれ練習している毎日ですが、このような機会と空間で日本の美しいメロディーと詞に出会うと、こどもの頃に育ったふるさとにタイムスリップした感覚を覚えたものです。心身が今一度リセットされ、若返った気持ちでした。このような歌がもっともっとと広く流れ、口ずさまれると日本ももう少し穏やかな温かい国になるかもしれません。その後、7名の方々、4曲ずつ歌い、美味しい料理を堪能し、楽しくそれぞれ歌を聴かせてもらい、小春日和の日を満喫したものでした。

ふるさとの空につづいている

作詞/山口洋子
作曲/吉川正夫

きらきらと雪どけの水が
朝の光に光っていた
きらきらと心の中の
小さな夢も光っていた
自分らしく生きて行こうよ
自分らしく夢中にかけて
生きてきた私の道よ
緑のふるさとの河に続いている

間奏

さわさわとアカシアの葉が
風にゆられてやさしかった
さわさわとひとみの中で
いとしい人が手を振った
自分らしく生きて行こうよ
自分らしく夢中で歌い
生きてきた私の道よ
緑のふるさとの空に続いている
さわさわとアカシアの葉が
風にゆられてやさしかった
さわさわとひとみの中で
いとしい人が手を振った



ピアニスト星野和正さんを偲ぶ

昨年五月三〇日、七〇歳を前に亡くなられたピアニスト星野和正さんが、今から二〇年ほど前になりませんが、渋谷の旧東邦生命ホールで、彼自身の構成によるサティの演奏会が開催されました。開演の緞帳が上がったとき、ステージ中央、ピアノの傍らに高さ二メートル以上、紙箱が塔状に積み上げられていました。ややあって、黒タキに身を包んだ角刈りの和正さんが客席を睨みつけるように現れ、ゆっくり紙箱に近づき、一蹴、音を立て崩れ落ちるステージ上に散乱した紙箱をそのままに、ピアノを弾き始めました。

背中をやや丸め、鍵盤から音を掴み上げるように掌を上げる演奏スタイルで、不協和音に音楽性を追求した異端の作曲家サティの姿に、己の生き様を重ねながら、渾身の演奏でした。紙箱を荒々しく崩す行為は既存の秩序に対する和正さん一流の破戒願望だったのでしょうか。

和正さんのレッスンは風景は、見ていて時に息苦しくなることがあります。せつかく習いに来た生徒さんに、いきなり激しい叱声。これではやめてしまうのでは、と人事ながら心配したことしばしばでした。それでも多くの生徒さんが最後まで離れなかったのは、音楽一筋、正面から向き合い、言動に裏表がなく、金銭



星野和正さん

感覚がきれいだったことでしょうか。

去る九月六日、お弟子さんたちが主催した「偲ぶ会」には、多くの人が参列し、盛大でした。(星野 亮記)

シャンソン名訳・迷訳

過去のしがらみを忘れ新しい恋に進む主人公の疑問に答えて Non で始まる歌詞は、その通りで「そうなの」と訳しました。

Non, je ne regrette rien

Non ! Rien de rien ...
Non ! Je ne regrette rien ...
Ni le bien,
Qu'on m'a fait,
Ni le mal,
Tout ça m'est bien égal
Non ! Rien de rien ...
Non ! Je ne regrette rien ...
C'est payé,
Balayé,
Oublié,
Je me fous du passé !
Avec mes souvenirs
J'ai allumé le feu,
Mes chagrins, mes plaisirs !
Je n'ai plus besoin d'eux !
Balayés mes amours,
Avec leurs trémolos,
Balayés pour toujours
Je repars à zéro...

Non ! Rien de rien ...
Non ! Je ne regrette rien ...
Ni le bien,
Qu'on m'a fait,
Ni le mal,
Tout ça m'est bien égal
Non ! Rien de rien ...
Non ! Je ne regrette rien ...
Car ma vie,
Car mes joies
Aujourd'hui,
Ça commence avec toi !

水に流して 星野 亮 直訳
そうなの！ 何もかもすべて
そうなの！ 私は何ひとつ惜しいとは思わない
良かったことも
人様が私にしてくれた
悪かったことも
すべて私にとっては同じこと
そうなの！ 何もかもすべて
そうなの！ 私は何ひとつ惜しいとは思わない
すべては清算され
掃き捨てられ
忘れ去られた
私には過去などどうでもいい
数々の思い出と共に
火をつけて燃やしてしまった
私の悲しみも、私の喜びも
私にはいずれももはや必要としない
数々の愛も掃き捨てた
すべての愛のときめきも
永遠に掃き捨てた
私は零(ゼロ)から再出発するのだ

そうなの！ 何もかもすべて
そうなの！ 私は何ひとつ惜しいとは思わない
良かったことも
人様が私にしてくれた
悪かったことも
すべて私にとっては同じこと
そうなの！ 何もかもすべて
そうなの！ 私は何ひとつ惜しいとは思わない
何故なら 私の人生も
何故なら 私の喜びも
今日
あなたと共に始まるの

東京銀座 蛙たち



コリドー街の一角、通りから階段を上ったところにその店はあります。「蛙たち」。49年続く日本最古のシャンソニエ。大人の街、銀座でシャンソンを楽しむのにぴったりなお店です。

銀座にありながら、開放感のある広い店内にシックな雰囲気の内テリア。そしてステージのピアノの脇にあるガス灯。今はなき「銀座」から受け継いだもので、その灯は数えきれないほどの歌手、ミュージシャン、そこに集まるお



開放感溢れる店内

客さんたちを今日も見守り続けています。

平日は毎日、シャンソン、カントオーネを中心としたステージ、週末は宝塚やミュージカルなどのイベントも行っています。「蛙たち」スタッフのピエールさん、蔵人さん、Sabieさん、ココさんらが、各ステージの前に歌い、場を和ませ、そして盛り上げます。「えっ、ピエールさん、「ご出身は？」と聞かれると、「パリです」ではなく、「埼玉です」と、つい正直に答えてしまうあたり、彼のお人柄が垣間見えます。そんなスタッフたちを温かい目で見守るのがオーナーの北村ゆみさん。お目当ての歌手の応援にくるお客さんはもちろん、お店のファンの方も大勢いらつしやるというのもよくわかる気がします。

そんな「蛙たち」が、二〇一五年三月一〇日には有楽町マリオン11階朝日ホールにて、「創業50年記念コンサート」を行います（17時開演、八〇〇〇円）。

50年という節目のイベントをお見逃しありませんように。普段のお店のステージとは違ったひとときをご堪能くださいませ。（Catsu 記）

シャンソニエ 蛙たち

東京都中央区銀座西7 8先 コリドー街
TEL. 03 3571 4417
Web. <http://www.kaerutachi.jp>

営業時間 19:00 ~ 23:15(日祝休業)
ライブ時間 19:30 ~、20:45 ~、22:00 ~



CHANSON RGSシャンソン研究会発行

日本生まれのシャンソン I

CD・カラオケ付き 定価 2000円 送料300円



27ラドンナ「日本生まれのシャンソン」を歌う会は平成27年1月25日原宿にて開催
「日本生まれのシャンソン」ホームページ <http://rgschanson.com>